

## 最優秀論文（社会人・一般の部）

コスモ石油株式会社 常勤監査役 **安藤 弘一 氏**

日本監査役協会設立40周年記念懸賞論文において、最優秀論文を受賞させていただきました。私の10年を超える監査役人生の中で、これ以上の喜びはありません。協会の40周年を祝すとともに、懸賞論文の企画から審査までの間、ご関係いただいた全ての方に先ずもって厚く御礼申し上げます。

企業統治の新たな転換期を迎えるにあたって、論文では、“社外取締役を含めた企業統治のベストプラクティス”を提示いたしました。「実務に携わる者がベストプラクティスの策定に積極的に貢献しなければならない」。これが日本監査役協会に育てていただいた恩返しであると思えました。ただ自らの経験不足は否めません。ベストプラクティスの提示は単なるたまたか台に過ぎません。皆様の忌憚のないご意見を頂戴し、内容の一層の充実に励みたいと決意を新たにしています。有難うございました。



## 最優秀論文（学生の部）

早稲田大学 商学部 四年 **井上 隆信 氏**

私がこのような賞を貰えるとは微塵も思ってもいませんでした。正直な話、こういった懸賞論文に応募したこと自体が初めてで、初めてなのに最優秀賞という名誉ある賞に選ばれて非常に戸惑っている反面、大変うれしくも思っています。今回論文を書く経緯は、偶然にも応募があることを知り、学生の内にこのような論文を書いてみるのも経験だなという単純な思いからでした。しかし、書くからには真剣に取り組み、そして取り組んでみるとこのテーマは非常に難しいテーマであることに気付かされました。

最後に、この論文を書くに至って、協力して頂いたゼミの先生や、論文に煮詰まった時に気分転換に付き合ってくれた友達にこの場を借りて感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。



### 佳作（社会人・一般の部）

大阪ガス株式会社 監査役室長 柳 伸之介 氏

一昨年、大学紀要に特定テーマの会社法関係の論文を寄稿させていただいた時の準備過程において、もっと全般的かつ根本的な我が国のコーポレート・ガバナンスに関する意見を整理して書きたいものだと考えていましたところ、この度、日本監査役協会からこのような機会を得て個人の論考を公表させていただいたこと、大変ありがたく感謝しています。

我が国の監査役制度は企業文化や伝統に適合した基本的には優れた制度であると常々思っています。二元論的議論や枠組み議論に追われて本質への視点が疎かにならないようにという理念が本稿の根底にあります。今後も企業実務を通じて、より良いガバナンスや内部統制のあり方について思考、検討していきたいものです。



### 佳作（社会人・一般の部）

クロウホーワス・グローバルリスクコンサルティング株式会社  
代表取締役社長 毛利 正人 氏

40周年という節目における荣誉ある賞を頂き、たいへん光栄に存じます。私は日常、日本企業の海外子会社に対する内部監査の支援、リスクマネジメントなどのプロジェクトに従事しています。業務を通じ、今後ますますグローバル化する日本企業は、海外においてリスクを回避し企業価値を高める経営を行う必要があります、その活動を昨今増加している外国法人株主を含む、株主全体に明確に説明することができるコーポレート・ガバナンスの体制が求められていると実感しています。このような問題意識から本論文を執筆いたしました。

今後は、平成26年会社法改正において選択可能となる監査等委員会設置会社におけるあるべき実務の姿、監査役会設置会社における実務との相違点などについて、より研究を深めていきたいと考えています。この度は、荣誉ある賞を頂き誠に有難うございました。



## 佳作（社会人・一般の部）

株式会社UMNファーマ 常勤監査役 **高木 淳一 氏**

本論文は「監査役制度問題研究会中間報告書」（本年2月公表）を基盤としています。常勤監査役として5年、それ以前の30年に亘るファイナンスを中心とした職務経験を通じて学んだこと、常にかけていたことを総括しました。力点は過去の制度設計上の経緯より現状及び将来に、前提は社会システムとして為替市場を介したグローバル市場経済を、今後の課題は価値創造に資する「ジャッジ」の発掘であると考えています。

今日までお世話になった多くの方々、なかでも礎石となる数々の貴重な経験と手厚い教育をいただいた現パナソニック（株）及びこの度の機会を与えていただいた日本監査役協会の関係の皆様に、あらためて心より篤く御礼申し上げます。



## 佳作（学生の部）

東京理科大学 経営学部経営学科 三年

**白石 彩華 氏／内堀 佑梨菜 氏**

はじめに、今回の論文が佳作に選ばれましたこと、大変嬉しく思います。

今まで監査について考えたことがあまりなかったのですが、今回の懸賞論文に応募させていただくことによって様々な監査体制について知ることが出来ました。日本企業が今衰退しているということで今回はどのようにして日本企業は復活を遂げることができるのかということに重点を置き、私たちの考えを述べさせていただきました。

コーポレート・ガバナンスが復活の鍵を握るということですが、日本内で不正が多発している昨今、まさに監査業務に携わる方々の取り組みによって日本の業績は良い方に変化すると考えられます。

末尾になりましたが、これからの監査業務に携わる皆様のさらなる活躍を祈願させていただきます。此度は、本当にありがとうございました。

